



七本松

この秋ぞ！

世紀を繋ぐ棧を

渡ろうライオニズム



会長 L 田邊茂樹

このたび、三十七代会長にご推挙賜り、七月一日、光栄に覚えると同時に緊張裏に就任致しました。会長としての資質に欠けていることは因より、クラブ運営や案件処理にも疎く迷惑をお掛けするばかりですが、忌憚のない叱責を頂き誠実にこの責を果たしたく存じます。何卒この一年間、ご協力下さいますようお願い申し上げます。就任後三ヶ月余りが過ぎまして、いささか時宜を失った思いはありますが「七本松」発行の都合もありまして今日になってしまいました。が、この間、伊香郡スポーツ少年団交流大会を始め、ウッディバル余呉での家族納涼大会等大きな事業や行事を経験しました。関係委員長・委員の皆様のご苦勞に感謝致します。

さて、スローガンとして「『この秋ぞ』世紀を繋ぐかけしを渡ろうライオニズム」の文言を掲げました。大変独善的な表現ですが、ライオンズ活動の拠りどころと考えています。恣意的な解釈になりますが、以下所信をご説明申し上げます。諸兄のご批判を仰ぎたいと思えます。それにつけても、世紀を跨ぐ千載一遇の機会に立ち合わせて頂いたことを喜びとし、永く私の記憶に留まることでしょうか。この「秋」に佇み新しい世紀を展望する視野に立ち、素晴らしい伝統や文化を継承しつつも現在の価値観を、見直しも含め創造することを各方に諮りたく思い立ったの

であります。又、目的意識を明確にして「手段」との峻別を試みなければならぬと思っております。手段が目的化してはなりません。しかしながら、手段があつてこそ目的に近づけるのであつて手段こそ最重要課題と言えるでしょう。例会、家族とのパーティー、旅行、観劇、同好会等があつてこそ相互理解や共通意識が醸成され、これが収斂し昇華したものが「友情」であり、「ウイサーブ」でもあり、「ライオニズム」であろうと私は信じて疑いません。ライオンズに在籍することに矜持を持たなければなりません。同時に家族共々に厳粛な「覚悟」も要求されます。ライオンズは寄付団体でも社交団体でもありません。行き着くところは「奉仕」のみになります。例えばア

イバンクでの献眼登録や臓器提供のそれでありませぬ。お付き合いや掛け声は画餅です。実践されなければ意味がありません。ところが、宗教観や死生観は人それぞれであり、特別な場面での執行は、はなはだ困難を極めることを私も知っているつもりです。でも尚これを超えなければならぬ厳しい選択と決断が一方にもあるのだということをお断りしなくては云えないでしょう。私は決して高いとは思いません。評価の累積が評価を呼ぶのであつて、評価されることを意識しての表面的な奉仕であつてはならないと考えるのです。終章になりましたが、在籍を顧みま

委員長方針

■出席 会則 付則委員会

委員長 L 八木富士夫

入会させて頂きまして、二年余りで、このような大役をお任せつかり恐縮致しております。何をどのようにしてゆか、全くわかりませんが、とにかくライオンズのモットーであります「ウイサーブ」の精神にのっとり、肩の力を抜いて、リキまずやっつけてゆきたいと思っております。

さて本年度の活動目標であります。色々と言葉を並べてみたものの、ピツタリくるものがみつかりません。故に皆様方が「ちよつとみんなの顔を見に行つてくるか」と気軽な感覚で出席して頂けるような雰囲気作りができればいいなと考えている次第です。どうかこの一年間、何かとお目に見える点、行き届かない点、多々あることと思ひますが、皆様方の御支援、御指導の程を心よりお願い申し上げます。初心表明とさせて頂きます。



■計画委員会

委員長 L 藤田暢彦

計画委員会の役割は、とかくマンネリになりがちな例会をいかにして魅力ある意義ある例会にするかにあると考えております。

会長方針の「この秋ぞ！世紀を繋ぐ棧を渡ろうライオニズム」を基本に、計画委員会としては、ライオニズム即ち、ボランティア精神の四原則である「自発性・無償性・連帯・先駆」の内、今年度は「連帯」と「先駆」をキーワードに例会を計画いたしました。

「連帯」については、運営・事業各委員会の方針を例会に反映できるように、各委員会との連携を一層、緊密にするよう努め、また、「トコウしてL・Cに参加できるのもみんな家族のお蔭です」という感謝の気持ちも含め、家族ぐるみの連帯・親睦を深めていただくよう「ご家族参加型の例会」を多く持ちたいと考えております。

また、「先駆」については、永年にわたり先輩諸氏が築いてこられた当クラブを、更なる発展に向けて、活気あるものにするため、「一歩お先に、新しいことを試みる例会」を計画しておりますが、会員各位のユニークなお考えをお寄せいただければ幸いです。

「クラブ」は「倶楽部」であり、まずは、「大勢の人たちが共に楽しむ集い」となり、会長方針にある「二十一世紀へ向けて、社会奉仕活動の新たな出発点」になるよう、計画委員会一同、努めますので、会員各位のご協力をよろしく願ひいたします。



■会員指導力育成委員会

委員長 L 藤田市治

「一本の明かり。一本の小さな明かり。それは僅かに身の回りを照らすのみに過ぎない。しかし幾千万と集まれば、影と闇とをなくす巨大な光明となるに違いない」

これは、「ライオンズの光」の冒頭の一文である。当クラブは、現在、終身会員を含めて59名を擁する大所帯である。設立当初19名であったことからすれば、文字通り、雲泥の差である。それだけに巨大な光明となつてしかるべきものである。

それにも拘らず、例会のマンネリ化や例会がただ単なる食事会にとどまつていること等からくる会員としての虚しさ。それを解消するために必要なことは、決して会員増強ではないと思う。クラブはあくまでも数の大小に拘らず「倶楽部」でなければならぬ。共に皆んなが楽しむ。折角相集つた限りは、そこにおいて何か得るところがあるというものにしていかなければ、会員増強のための勧誘すらも困難であるといえましょう。

そこで、今年の当委員会としては、会長方針を踏まえ、会員増強は、自然減少を見越しての現状維持をモットーに、年間、2、3名の新入会員を獲得することを前提として、活動を始めてまいります。

従つて、12月5日、新入会員の入会式例会に、必ず間に合わせるよう、11月中旬の理事会に通過することを目標に、10月には、全会員に入会の勧誘策を配布の上、各員の一層の奮励ご努力を促す次第でございます。

会員各位の深いご理解に基づくご協力のほどを切にお願い申し上げます。